

古染付展

会期：2007年1月16日（火）～12月24日（月）

古染付とその時代背景

古染付が焼かれたのは明朝末期の天啓時代（1621～27年）を中心として、崇禎時代（1628～44年）の初めころ迄の10年余りの間です。

この頃明朝は長く謳歌してきた王朝の歴史にも陰りが見え始め、各地で民変と呼ばれる民衆の反乱が相次ぎ、北方ではヌルハチが金国を起こし（1616年）、その子ホンタイジが国号を大清と改め（1636年）その勢力を拡大していました。明朝が滅び、大清国が北京に首都を移す1644年は目前に迫っていました。

一方、景德鎮窯は江南の華やかな文化の中で、その一翼を担う華麗な磁器を生産してきましたが、宮廷からの大量発注に官窯だけでは対応しきれなくなり、民窯へも依託して焼造を行うようになります。特に万暦期（1573～1620年）はその焼造数がピークに達して、上質の粘土が入手困難になり、「虫喰い」等が生じる粗雑な磁器も造るようになりました。万暦帝の死によって、宮廷用磁器の焼造が中止されると、民窯は自由な作風の磁器を焼造することが出来るようになり、海外からの注文にも応えて、ヨーロッパへも大量の民窯製品が輸出されました。

目を日本に転じると、1615年に豊臣家が滅んで徳川幕府が盤石の体制を整え始めた時期にあたり、茶の世界では織部好みと呼ばれる、独特の焼きものが流行っていました。

この様な中で、景德鎮民窯では日本からの注文に応え、織部好みの器を模した製品（例えば手鉢や扇形向付など）を造り、日本に輸出したのです。

景德鎮民窯の焼造環境と、日本の茶人の好みとがうまくかみ合っ、短い時間ではありましたが、自由奔放な作りの古染付は日本の茶人を魅了したのです。



52 笠絵茶碗



47 馬形向付 五客のうち

古染付の見所

虫喰い

「虫喰い」とは、器の口縁や角の釉薬が剥げ落ちた様子を指した言葉です。生地
の胎土と釉薬との収縮率の違いから、薄くかかりやすい口縁部の釉薬は、焼造
中に小さなガラス体の気孔を作ります。焼き上がった後にこの気孔はかきくだか
れるため、口縁部に小さな穴ができます。この様子に風情があるとして、「虫喰
い」はかえって日本の茶人に喜ばれました。

自由奔放な絵付け

器面には人物や動物、風景などの文様がおおらかな筆致で描かれています。自
由奔放な絵付けは、染付けの鈍い発色とあいまって素朴な味わいをみせています。

人物文

羅漢や松仙人などの仙人、中国の官人姿の人物、唐子などがあります。中
でも、仙人の飄逸とした表情や凜とした姿が好まれています。

動物文

馬や鹿など動物のみを描いたものから、瓜に栗鼠、象に唐子など、動物に植
物や人物を組み合わせた文様もあります。動物の動きや表情の特徴を的確に
捉えながら、のびのびとした筆致で愛嬌のある様子を表現しています。

風景文

主に山川を中心とした風景を描き、人物や舟などが点描されるものもあり
ます。なかには詩文が書かれる皿もあり、器面に一幅の山水画を見るよう
です。

日本の茶人好みの器形・文様

古染付の中には、花生、水指、茶碗、手鉢、向付など、日本の茶人が注文した
作品が多く見られます。中でも、織部焼の器形を倣った手鉢や、菅笠などの日本
の文様を取り入れた作品は、これらが日本からの注文品であることを明確に示し
ています。古染付は中国で生産した磁器でありながら、日本の器形や文様を取り
入れた特異な磁器であると言えるでしょう。また、向付には、象、仔馬、兔、蝶、
桃、法螺貝などを模した独創的な器形があります。その自由な造形感覚は、現代
の私達にも新鮮な驚きを与えてくれます。

展示作品リスト

作品番号	作品名	作品名(ふりがな)	高さ	直径
			cm	cm
1	鞠挾香合	まりばさみこうごう	4	4.4
2	兜巾茄子香合	ときんなすこうごう	4.7	5.7
3	捻酒盃	ねじしゅはい	3.3	7.3
4	吹墨魚付貝形酒呑	ふきずみうおつきかいがたぐいのみ	3	7.9
5	竹林人物図把盃	ちくりんじんぶつずはい	8.7	8.6
6	唐子 一對	からこ いっつい	10.7	11
7	牡丹唐獅子兜鉢	ぼたんからじしかぶとばち	6.7	36.8
8	山水人物文大皿	さんすいじんぶつもんおおざら	3.9	28.1
9	象童子図大皿	ぞうどうじずおおざら	3.8	28.2
10	釣魚図段皿	ちょうぎよずだんざら	3.2	25
11	羅漢図中皿	らかんずちゅうざら	3.45	22.3
12	松鹿図輪花中皿	しょうろくずりんかちゅうざら	4	20.4
13	鶏耳青磁花入	けいじせいじはないれ	27.7	10.1
14	蟹童子図袋形掛花入	かにどうじずふくろがたかけはないれ	18.7	11.2
15	松竹梅図水指	しょうちくばいずみずさし	10.1	14.4
16	葡萄棚水指	ぶどうだなみずさし	17.9	18.3
17	花鳥文水指	かちょうもんみずさし	14.5	21.1
18	菊花栗鼠図絞手徳利	きくかりすずしぼりでとっくり	19.5	10
19	三馬図手鉢	さんばずてばち	11.2	19
20	花鳥文六角蓋物	かちょうもんろっかくふたもの	13.2	17.1
21	瓜栗鼠図阿古陀小壺	うりりすずあこだこつぼ	10.1	10.5
22	井戸のぞき獅子蓋置	いどのぞきししふたおき	7.1	7.2
23	海浦文吹墨四方筒	かいほもんふきずみしほうづつ	7.3	6.3
24	下蕪山水人物文茶入	しもかぶらさんすいじんぶつもんちゃいれ	9.1	6.4
25	松竹文酒呑 五客	しょうちくもんぐいのみ	6.5	6.7
26	唐子遊図茶碗	からこあそびずちゃわん	8.5	9.8
27	柳人物図茶碗	やなぎじんぶつずちゃわん	9.5	10.5
28	松竹梅図筒茶碗	しょうちくばいずつつちゃわん	7.8	9.3
29	蓮池人物図汲出 五客	れんちじんぶつずくみだし	5.65	8.8
30	輪宝文火入	りんぼうもんひいれ	7.6	11.5
31	芦葉達磨図火入	あしばだるまずひいれ	7.6	9.8
32	馬図火入	うまずひいれ	8.3	11.1
33	梅花散輪花茶碗	ばいかちらしりんかちゃわん	8.3	10.9
34	狩獵図筒茶碗	しゅりょうずつつちゃわん	8.8	9.3
35	網文茶碗	あみもんちゃわん	7.5	10.3
36	鉄青磁瑠璃掛分筒茶碗	てつせいじるりかけわけつつちゃわん	12.4	9.7
37	芦雁図筒碗	あしかりずつつわん	9.1	6.8

38	麦藁手筒茶碗	むぎわらでつつちやわん	10.7	7.4
39	辻堂向付 五客	つじどうむこうづけ	5.1	20
40	楓形山水人物文向付 五客	かえでがたさんすいじんぶつもんむこうづけ	4	14.6
41	一葉向付 五客	いちようむこうづけ	3.8	19.8
42	開扇形山水人物文向付 五客	かいせんがたさんすいじんぶつもん むこうづけ	4.8	20
43	半開扇山水文向付 十客	はんかいせんさんすいもんむこうづけ	4	20.2
44	猿公採桃図向付 五客+一客	えんこうさいとうずむこうづけ	4.2	14.4
45	双榴形向付 五客	そうりゅうがたむこうづけ	4.3	16.8
46	兔形向付 五客	うさぎがたむこうづけ	3.7	16.1
47	馬形向付 五客	うまがたむこうづけ	4	17
48	魚形向付 五客	うおがたむこうづけ	3.5	22.8
49	双魚形向付 五客	そうぎょがたむこうづけ	4.1	18.9
50	法螺貝形向付 五客	ほらがいがたむこうづけ	4	18.3
51	寄向付虫獣六題 六客	よせむこうづけちゅうじゅうろくだい (蝶)	3.6	16.9
52	笠絵茶碗	かさえちやわん	8.6	13.1
53	龍虎図風字硯	りゅうこずふうじすずり	3.9	16.2
54	双鹿文輪花鉢	そうろくもんりんかばち	5.9	17.4
55	地獄極楽図菱花小鉢	じごくごくらくずりょうかこばち	5.9	20.8
56	山水騎馬人物瓢形鉢	さんすいきばじんぶつひさごがたはち	6.7	24.3
57	瓜栗鼠浮文輪花深鉢	うりりすふもんりんかふかばち	6.3	19.1
58	山水文菊花小鉢 天啓五年銘	さんすいもんきくかこばち てんけいごねんめい	4.4	15.5
59	芦葉達磨図盥鉢	あしばだるまずたらいばち	4.9	16.7
60	松仙人図角鉢	まつせんになずかくばち	3.4	16.5
61	山水文長角皿	さんすいもんちょうかくざら	5.4	24.6
62	花模様輪花中皿	はなもようりんかちゅうざら	3.8	20.7
63	福字吉祥文鉦鉢	ふくじきっしょうもんどらばち	2.7	21.7
64	象童子図鉦鉢	ぞうどうじずどらばち	3.2	22.5
65	火馬図太鼓鉢	ひうまずたいこばち	4.2	24.2
66	山水文太鼓鉢	さんすいもんたいこばち	3.6	20.3

後期の主な展示予定(8月18日~)

- ・ 筍形向付 五客
- ・ 琵琶形向付 五客
- ・ 山羊形向付 五客
- ・ 蓮華形向付 五客
- ・ 蝶形向付 五客
- ・ 海老形向付 五客
- ・ 輪花形吉祥花鳥文向付 五客
- ・ 釉裏紅柳下舟行図七寸皿 五客
- ・ 釉裏紅網魚文平鉢
- ・ 舟行送客図八寸皿
- ・ 唐子遊図鉦鉢
- ・ 瓜図七寸皿 など